

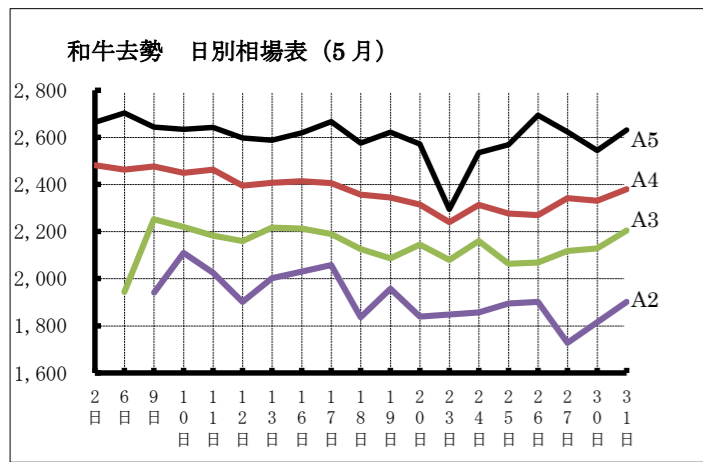
# 月刊しばうら

## 2022年6月号

### 牛肉営業部

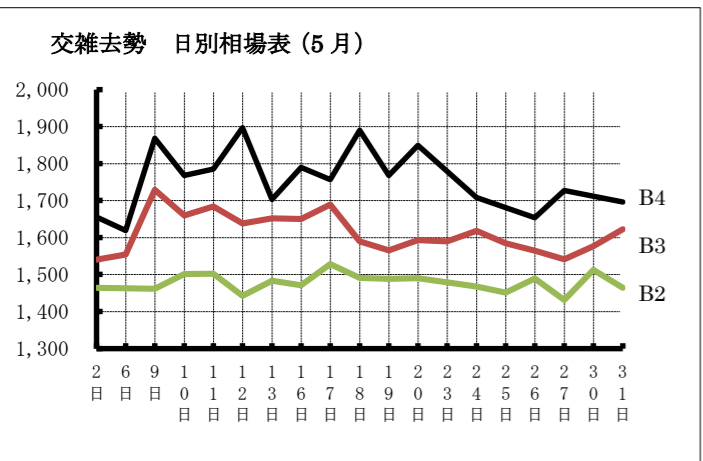
＜5月の相場動向＞

新型コロナウイルスの感染拡大による緊急事態宣言や、まん延防止等重点措置が全面的に解除され、3年ぶりの行動制限がないゴールデンウィークであったが、新規感染者数は高止まり状態にあり、本格的な外食需要回復にはなかなか至っていない。また食品価格や原油価格の高騰が消費意欲に影を落とし、家庭内需要に盛り上がりが見られなかったこともあり、和牛・交雑ともに一部の等級を除いて前年実績を割る結果となった。



和牛去勢 (月平均)

	加重平	前年同月比	前月比
A5	2,612円	-71円	97.4%
A4	2,368円	-41円	98.3%
A3	2,153円	-66円	97.0%
A2	1,953円	147円	108.1%



交雑去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比	前月比
B4	1,767円	-36円	98.0%
B3	1,609円	-72円	95.7%
B2	1,476円	-71円	95.4%

乳牛去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比	前月比
B3	上場なし	-	-
B2	1,130円	45円	104.1%

＜5・6月の牛肉輸入量予測＞

財務省が発表した輸入通関実績によると、4月の輸入量は前年同月比11.2%増の6万1,551tで、うちチルドは19.8%減の2万510t、フローズンは前年同月比38.0%増の4万1,040tとなった。チルドは豪州産、米国産の入船遅延の影響を受け、輸入量が大幅に減少した。一方フローズンの輸入量は大幅に増加し、チルドの輸入減を補完する形となった。農畜産業振興機構によると5月の輸入通関予測は3.9%減の4万7,700t、6月は6.0%減の4万9,100tで予測している。

輸入牛肉通関量	4月	前年同月	前年同月比	
チルド	豪州	6,963	10,050	69.3%
	米国	10,731	13,174	81.5%
	その他	2,816	2,361	119.3%
	合計	20,510	25,585	80.2%
フローズン	豪州	15,354	14,699	104.5%
	米国	14,600	8,299	175.9%
	その他	11,086	6,747	164.3%
	合計	41,040	29,745	138.0%

出典：食肉速報 単位：t

＜6月の全国出荷頭数予測＞

農畜産業振興機構による6月の出荷予測頭数は、全体で前年比102.1%の8万6,100頭で、品種別にみると、和牛は0.8%増の3万8,800頭、交雑種は7.0%増の1万9,600頭、乳用種は1.2%増の2万6,200頭と予測している。東京食肉市場の6月のと畜頭数は7,200頭を予定しています。

＜6月の牛枝肉相場見通し＞

新型コロナウイルスの新規感染数は横ばい傾向であるが、外国人の入国制限が緩和されるなど、ウィズ・コロナに向けた政策方針の転換により、失われたインバウンド需要の回復に期待がかかる。一方、相次ぐ食品等の値上げや原油価格の高騰から、国内の消費マインドは冷めた状況が続くと考えられるため、牛肉の需要を取り巻く環境は厳しい状況が継続する見込み。

和牛については、冷凍保管事業や輸出需要等により下支えされた価格展開が継続されたが、中国における新型コロナウイルスの感染拡大と、それに伴う行動制限による影響が懸念される。交雑種や乳用種については、輸入牛肉の価格が高いこともあり、一定の価格が維持される展開の継続が見込まれる。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,550～2,750	B4	1,650～1,850
A4	2,400～2,500	B3	1,500～1,600
A3	2,200～2,300	B2	1,300～1,400
A2	2,000～2,100		
乳牛去勢			
B3	1,100～1,150		
B2	1,050～1,100		

### 豚肉営業部

4月の全国と畜頭数は、前年同月比4.4%減の138万5,416頭。また、4月の豚肉通関数量は10万8,930t（前年同月比10.3%増）と前年同月から大幅に増加。内訳はチルドが3万7,346t（8.0%減）と減少した一方、フローズンは7万1,584t（23.1%増）と大きく増加した。

2021-2022年の需給量と推定期末在庫						
月	供給量		推定期末在庫		推定出回り量	
	生産量	輸入量	国産物	輸入物	国産物	輸入物
4	80,131	98,642	25,593	159,043	78,537	97,479
5	72,872	71,194	25,852	159,623	72,522	70,614
6	73,971	75,228	25,290	162,439	74,393	72,412
7	71,419	74,607	23,926	160,643	72,678	76,403
8	71,268	78,140	22,888	165,573	72,189	73,210
9	75,182	74,211	21,928	165,491	76,016	74,293
10	76,972	77,876	21,359	161,448	77,317	81,919
11	82,305	78,461	21,604	154,751	81,908	85,158
12	82,143	74,466	22,912	145,676	80,677	83,541
1	79,561	82,518	23,226	154,046	79,136	74,148
2	73,703	71,813	23,161	156,035	73,664	69,824
3	83,139	71,938	24,001	156,094	82,191	71,779
4	76,226	108,81	22,232	169,980	77,840	94,930
比	95%	110%	87%	107%	99%	97%

比：最終月の前年同期比 出典：農畜産業振興機構 単位：t

4月豚肉通関実績					
アメリカ	16,503	79.4%	デンマーク	13,867	106.6%
カナダ	18,071	97.3%	スペイン	23,193	193.3%
メキシコ	2,771	220.8%	メキシコ	11,965	109.6%
			アメリカ	5,590	80.4%
			カナダ	3,549	114.7%
合計	37,346	92.0%		71,584	123.1%

単位：t

＜5月の豚取引の推移＞

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
2日	58,000	578	576	895
6日	67,100	669	657	1,130
9日	64,300	647	635	1,059
10日	67,400	667	648	937
11日	64,200	627	600	790
12日	67,900	644	633	752
13日	62,400	635	619	967
平均	64,471/日			933/日

今年のゴールデンウィークは緊急事態宣言が解除されたことで地方を中心に荷動きは良かった。連休明け6日は補充買いに加え、全国と畜頭数が休み明けにはは少なかったことで相場は急騰した。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
16日	67,100	667	625	589
17日	65,600	639	623	922
18日	62,300	657	621	585
19日	65,800	659	620	523
20日	60,000	631	618	859
23日	61,000	648	622	541
平均	63,633/日			670/日

全国と畜頭数は減少傾向だが引き合いは強く、相場は上中の価格が600円を超える展開が続いた。例年は中旬から需要は落ち着く時期ではあるが、新型コロナウイルスの感染者数が高止まりの状態にあり、またウクライナ情勢による世界的な食肉の価格高騰、円安による輸入環境の悪化により、国産豚肉の需要が安定し、相場の高値が続いたとみられる。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
24日	65,000	651	628	760
25日	61,800	646	622	628
26日	63,000	641	618	646
27日	60,200	623	607	919
30日	64,400	613	579	653
31日	62,500	618	603	852
平均	62,817/日			743/日

相場は引き続き600円を上回る底堅い展開となった。梅雨入りが近づき、確実に不需要期となってきているが、出荷頭数が減少傾向にある中、輸入豚肉が不安定な状況が続いたことで国産の引き合いは強かった。

＜6月の豚枝肉相場見通し＞

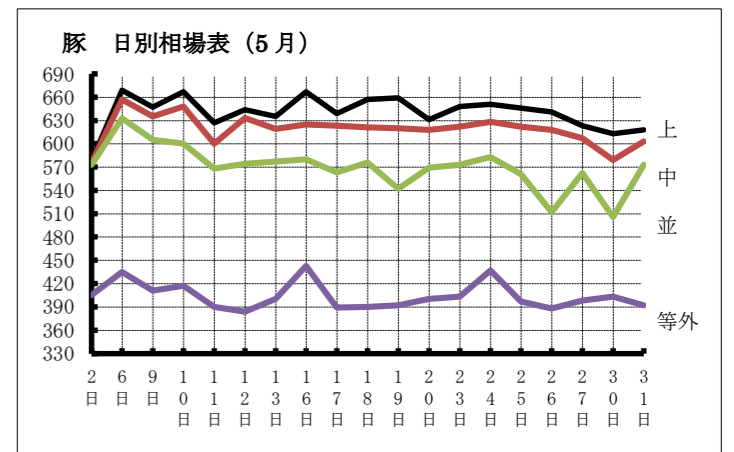
農林水産省による6月の肉豚出荷予測では132万4,000頭（前年同月比98.0%）と予測している。当市場の6月集荷予定頭数は1万5,000頭、1日あたりでは約682頭を見込んでいる。農畜産業振興機構によると6月分の豚肉輸入見込数量は、総量で7万5,700t（前年同月比100.6%）、内訳は冷蔵輸入量が3万3,200t（同93.3%）、冷凍輸入量は4万2,500t（同107.2%）と予測。

冷蔵品輸入量は、北米の継続的な需要増加や為替相場の変動による現地価格の高騰から、前年同月を下回ると予測する。同じく3ヵ月平均も、前年同期を大幅に下回ると予測する。

冷凍品輸入量は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う外食需要の減少やアジア諸国を中心とした旺盛な買い付けに伴う、現地価格の高騰等の影響を受けていた前年同月を大幅に上回ると予測する。同じく3ヵ月平均も、前年同期を大幅に上回ると予測する。

例年、6月は出荷頭数の減少傾向に伴い、相場が高値水準で推移する。さらに、今年は豚熱や、一部地域におけるPEDの発生の影響を受け、より一層出荷頭数が落ち込む可能性があり、相場に大きく影響を与える懸念がある。一方、需要については、梅雨入りの影響から消費が鈍化する時期にある中、チルドの輸入状況が不安定なため、国産へシフトする動きとなることが予想される。

以上のことから当市場の上物平均価格は650円前後、中物平均価格620円前後の展開と予測する。



**東京都港区港南2-7-19**  
**東京食肉市場株式会社**  
**TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127**